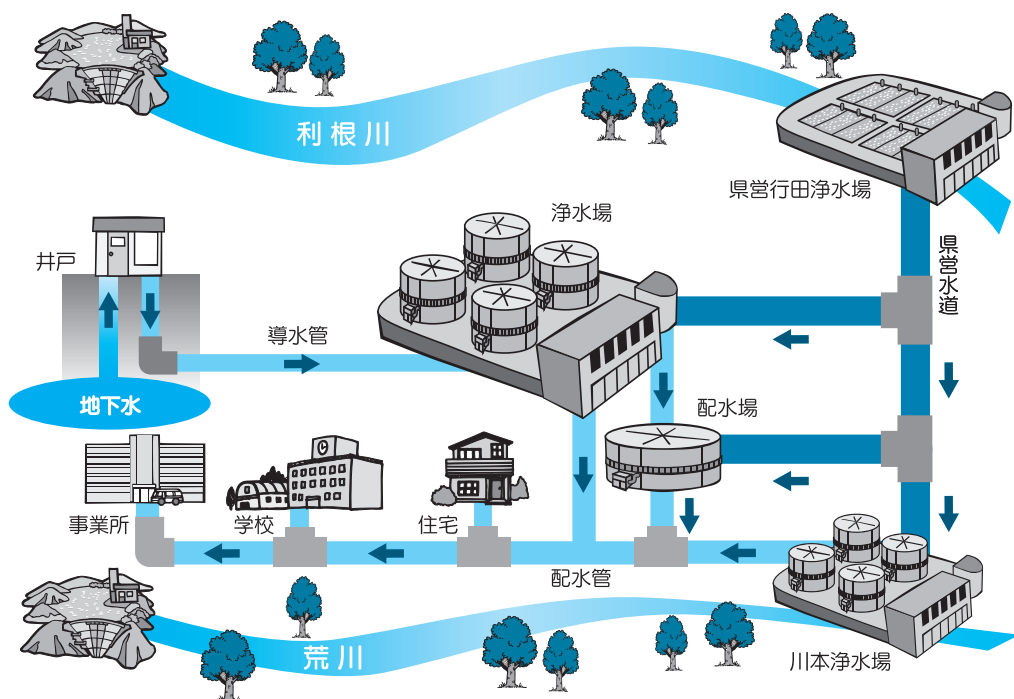


ふかやの おいしい 水



▲水道水ができるまで
市の水道は、地下水および荒川表流水を浄水処理した水と利根川表流水を浄水処理した水(県営水道)を利用しています。いずれも浄・配水場を通じて、安全で安心な水が皆さんのご家庭や学校、事業所などに送られています

地下水
水源の約7割が地下水

深井戸(前川原浄水場)

利根川の表流水

県営行田浄水場

荒川の表流水

川本浄水場

私たちの生活に欠かせない水道水。その水はどこから来て、どのように管理され家庭などへ届くのでしょうか。今月は、深谷の水道水について特集します。

問い合わせ 営業課 (0574-6070)

水道水をそのまま飲めるのは、
世界で13か国だけです

毎日使っている水、
世界では大切な水道水

私たちの生活には欠かせない水、蛇口をひねればいつでも出るのが当たり前の水道水ですが、国土交通省『日本の水資源』(平成16年版)によると、水道の水をそのまま飲める国は、世界中で13か国と、ごくわずかです。アジアでは唯一日本がその中に含まれます。

最近では多くのかたが市販の飲料水を買う求めますが、深谷の水道水は、『おいしい水の要件』の数値(下図参照)を多くの項目で達成しており、十分に『おいしい水』として飲むことができます。

水質項目	おいしい水数値	前川原浄水場
蒸発残留物(ミネラルなどの含有量)	30~200mg/L	137
硬度(カルシウムとマグネシウムの含有量)	10~100mg/L	71.4
遊離炭酸(水に溶けた炭酸ガスの含有量)	3~30mg/L	0.5
過マンガン酸カリウム消費量(水中の有機物濃度)	3mg/L以下	0.7
臭気度(においの強さ)	3以下	1未満
残留塩素(水中に残存する塩素の量)	0.4mg/L以下	0.32
水温	最高20℃以下	19

▲厚生労働省『おいしい水研究会』が定めた『おいしい水の要件』の数値。(調査:平成19年8月28日午前10時、気温30.5℃)『ふっか水』は前川原浄水場(中瀬地内)から採水

良質な水を
安定して届けます

水道水はどこから?

深谷市の水源(上図参照)は、市内33か所にある深井戸からくみあげた地下水が約65%、荒川の表流水によるものが約1%、また、利根川の表流水を浄水処理した県営水道からの購入水が約34%となっています。

市の計画給水人口は143,800人、1日当たりの最大給水量は71,800m³で、施設として6つの浄水場と、4つの配水場があります。こうして、24時間監視のもとで、毎日約53,000m³(25mプール約130杯分)の浄水処理された安全で安心な水を皆さんのご家庭や事業所に供給しています。

水質検査を毎日実施

市では、安心して水道水を飲んでいただくため、くみあげた地下水や河川水の原水に異常がないか、水道法に基づき水質検査を



ふっかちゃんのふるさとの水 『ふっか水』発売中!

深谷のおいしい地下水を500mlペットボトルに詰めた『ふっか水』。市内のふっかちゃん自動販売機や道の駅おかべなどで販売中です。『ふっか水』の売り上げの一部は『ふっかちゃん子ども福祉基金』へ積み立てられます。また、市の防災備蓄用の水として備蓄されています。

【採水地】前川原浄水場 【価格】1本120円(税込)

行っています。また、浄水場以外にも市内各地区の蛇口をお借りして毎日検査を行っています。

ふかやの水道水で『利き水』に挑戦！

市の水道水のおいしさを知ってもらうため、市内小学生に社会科授業の一環として、『利き水』体験をしてもらいました。



◆花園小学校4年3組の児童37人の皆さんが参加しました。
Q：普段、家や学校などの水道水は飲みますか？
A：37人中、『はい』27人、『いいえ』10人

◆実施方法

種類を伏せて3種の水を飲み、アンケートに答えてもらいました。飲料水は味の違いを認識してもらったため、温度などを同条件にして提供しました。

アンケートは、3種の水についてそれぞれ『おいしい・まあまあおいしい』『』『』『』の評価をお願いしました。

◆飲み比べた飲料水

☑岡部浄水場の水（地下水を原水にして岡部浄水場でつくられた水・硬度85mg/L）

☐花園第1配水場の水（利根川の水を原水にした水・硬度66mg/L）

◎市販のミネラルウォーターのペットボトル水（硬度300mg/L）

◆結果（表1参照）

回答者：37人（男子18人、女子19人）のうち『岡部浄水場の水』が『おいしい・まあまあおいしい』と答えた児童は92%、『花園第1配水場の水』と『市販のミネラルウォーターのペットボトル水』は

飲料水の種類	おいしい・まあまあおいしい	おいしくない
☐岡部浄水場の水	92% (34人/37人中)	8% (3人/37人中)
☐花園第1配水場の水	81% (30人/37人中)	19% (7人/37人中)
◎市販のミネラルウォーターのペットボトル水	81% (30人/37人中)	19% (7人/37人中)

▲表1：深谷の水道水の『利き水』（7月7日実施）アンケート集計結果

81%の児童が『おいしい・まあまあおいしい』と答えました。

児童からは、『岡部浄水場の水はまろやかで、いつも飲んでいる水に似ていておいしい』、『市販のミネラルウォーターのペットボトル水は、大人の味・苦味を感じた』との感想がありました。

また、『利き水』を実施後には、『これからは家や学校などで水道水を飲みたい』と回答した児童もいました。

安全・安心な水に

隠れたところにも

200億円を投資しています

深谷市の水道事業の開始は、深谷地区が県内でも2番目（昭和4年）と早く、岡部地区が県内69番目（昭和41年）、川本地区が県内74番目（昭和46年）、花園地区が県内78番目（昭和53年）となっています。深谷地区は昭和4年から85年が、花園地区でも36年が経過しています。

このため、水道施設の老朽化が著しく、早期の整備を進めることが求められています。

市民の皆さんに安全で安心な水を供給するため、また、ライフラインとして重要な水道施設の耐震化、長寿命化を図るため、市では、約200億円を投資して、平成21年から32年までを計画期間として整備しています。

計画的な施設整備

水道事業基本計画（表2参照）に基づき、浄・配水場の統廃合や老朽化した水道管の更新を進めています。

浄水場は、普濟寺と幡羅町を廃止し、現在拡張工事中の岡部浄水場に統合します。すでに4月から旧岡部と普濟寺浄水場区域は、岡部浄水場での運用が開始され、水道施設の新たな集中監視拠点となりました。来年3月までに岡部浄水場の拡張工事が完了すると、幡羅町浄水場区域も供給されます。

老朽化した水道管は、耐震性のない石綿セメント管から耐震性のあるダクタイル鋳鉄管へ更新しま

す。石綿セメント管は、合併時には約19.7kmありましたが、昨年度までに約1.4kmを更新し、平成32年度までに毎年6億円をかけて、残り約83kmを更新します。

サービス向上のための経営努力

深谷市の水道事業は、県内でも安い料金で運営されていますが、今後とも人口減少による料金収入の減少が見込まれるなど、水道事業経営を取り巻く環境は厳しい状況にあります。

このため、今年度完成予定の岡部浄水場への上下水道部門の事務所移転を好機と捉え、組織機構の見直し（人員削減など）、経費削

減をはじめとする企業経営の改善を進めます。今後も経営基盤を強化し、給水サービスの向上に努めます。

深谷市水道事業基本計画（長期整備計画）平成21～32年度

総事業費 合併特例債などを財源として 約200億円		
計画内の主な事業	事業内容	事業費
施設整備	岡部浄水場拡張工事ほか	約130億円
老朽管更新工事	石綿セメント管更新	約70億円

▲表2：深谷市水道事業基本計画（長期整備計画）から抜粋

深谷市の水道水 110円分を500ml ペットボトルに入ると約2,426本分

市販のミネラルウォーター-500ml = 110円

▲図：110円分の市販のミネラルウォーターと深谷市の水道水の比較